

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立広野小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

心豊かに 自ら学び ともに伸びゆく 子どもの育成
考える子 助け合う子 進んで取り組む子

今年度の指導の重点

- ・きく(聴く・尋ねる)ことができる児童
- ・掃除を黙ってできる児童
- 【校内研究テーマ】
- ・自ら学び、ききあい、協力して課題解決する子どもをめざして
- ・… 学び合う集団づくり…

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- ・算数Aは県平均より高く、算数Bは県平均よりやや高い。
- ・国語A及び国語Bは、県平均よりやや高い。
- ・理科は、県平均より、低い。
- ・国語Aでは、漢字は、読み書きともに県平均より高い。文中の主語を捉える問題と、表現の工夫を捉える問題に於いて県平均を下回った。国語Bでは、新聞の目的や意図に応じて割り付けを行う問題と文章の要旨をまとめて書く問題に於いて県平均を下回った。文章と図とを関係づけて自分の考えを書く問題と登場人物の行動を元にして場面の移り変わりを捉える問題と声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題で県平均を上回った。
- ・算数Aでは、大部分の設定で県平均を上回ったが、時刻を求める問題と180度以上の角を測る問題で県平均を下回った。算数Bでは、図形の性質を利用して2組の道のりが等しくなることを記述する問題と、基準量を求める割合の問題と巻き尺で正三角形を作る問題で県平均を下回った。その他は、ほぼ県平均かそれを上回った。
- ・理科では、メダカの雌雄を見分ける方法と、顕微鏡の名称で県平均を下回った。7つの設問では、県平均を上回った。
- ・算数においては、解答を記述(本校12.5、県28.8、国27.7)で求めている問題と割合(本校6.3、県13.8、国13.1)の問題で昨年同様低い値を示した。
- ・国語では、漢字は全ての項目で県平均を上回っている。引用文を抜き出す問題(本校12.5、県15.2、国19.8)が弱い。
- ・実験器具の名称が覚えることができていない。(本校25.0、県71.8、国70.7)

【学習状況調査の結果】

- ・平日におけるテレビの視聴時間4時間以上の児童が25%、2時間以上だと75%
- ・平日の授業以外の学習時間1日1時間未満の児童が、62.6%。県・国に比べて、1時間以上勉強する児童の割合が低い。
- ・家で、学校の宿題をしている児童の割合は高いが、復習や予習をしている児童の割合は低い。
- ・授業で発表の機会があたえられていた、あるいは話し合う活動を良くやっていたと答えた児童が多い。
- ・授業で、目当てや振り返りの活動がされていたと答えた児童の割合が低い。
- ・国語や算数の授業はとても大切だ(国語81.3%、算数93.8%)・将来とても役に立つと考えている(国語81.3%、算数100%)児童の割合は高いが、とても好きな児童の割合は低い(国語18.8%、算数25.0%)

成果と課題

- ・算数Aにおいては、県平均・全国平均を大きく上回った。朝自習のプリント・学習到達度テスト・放課後学習の成果が現れたと思う。しかし、算数Bにおいて、期待通りの成果が出なかった。活用能力を伸ばすことが今後の課題である。
- ・割合の学習は、算数の重点単元として、図と関連づけて解決できるよう指導の徹底を図ったが、その成果が現れなかった。新しい課題として、180°以上の角を測る問題で分度器が正しく使えないことが判明した。また、記述式の回答を求められる問題に、弱点が見られた。
- ・テレビ視聴の時間が多く、家庭学習(自主学習)の時間が短い。
- ・授業で、目当てや振り返りの活動が成されていたと感じる児童が少ない。
- ・国語や算数の授業は大切だ、将来役に立つと考えている児童がほとんどなのに、好きな児童の割合が異常に低い。

課題に対応した改善方法

- ・今のままの授業では、活用問題においては県平均が精一杯だと考える。今後は、予習のできる児童の育成に向けて授業改善を図り、基礎問題だけでは無く、活用問題も授業に積極的に取り入れB問題の成績アップに繋げたい。
- ・180°以上の角を測る問題に於いて、分度器の使用方法をただ教えるだけで無く、子どもたち自ら工夫して測る授業づくりをする。
- ・グループ学習によって言語能力を高めるとともにノートに自分の考えをまとめる時間を確保して、書く表現力を高めていきたい。
- ・PTAと連携して、テレビ視聴の軽減を図るとともに、振り返り学習をきちんと位置付け、家庭学習(自主学習や予習)に結び付けたい。
- ・振り返りを徹底させ、振り返りと関連付けて予習や復習ができる児童を育て、授業において活躍ができる児童を増やして算数や国語、その他の教科を「好きだ」と感じる児童の増加を図りたい。

取組の検証方法及び検証時期

- ・H28年5月までに標準学力検査・ハイパーQU・学期毎の児童アンケート等による検証を行う。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

- ・理科の平均点を県平均に。
- ・家庭学習の1時間以上の割合を増やす。
- ・算数・国語が「好き」と答える児童を県平均にする。
- ・目当てや振り返りの活動があったと言う児童を県平均以上にする。